

第3回 周南市観光ビジョン策定委員会 議事録

日 時：令和6年11月18日（月）10：00～11：20

場 所：周南市役所 シビックプラットホーム 多目的室

出席委員：朝水 宗彦 委員 難波 利光 委員 山田 みゆき 委員 小野 拓二 委員
岡崎 麻衣 委員 宮崎 真紀子 委員 竹永 富夫 委員 組谷 明豊 委員
有田 由貴 委員 勝屋 幸代 委員

欠席者：井上 康 アドバイザー

事務局：文化スポーツ観光部観光振興課 計4名

傍聴者：1名

■会長のあいさつ

朝水 宗彦教授による挨拶

【議事】

議事進行 朝水会長

議題. 第4期周南市観光ビジョンの素案について

（事務局より説明）＜資料「第4期周南市観光ビジョン（素案）」及び「第2回策定委員会からの変更点」＞

○委員からのご意見等

【会長】

「2-1 周南市を取り巻く現状」のグラフでは、国内の傾向と比較してコロナ禍の観光客及び外国人観光客の減少幅が小さかった一方で、コロナ禍後の回復が鈍いことが読み取れる。

なお、2019年に国及び周南市を訪れる外国人観光客数が増加した一方、県においては減少している。

これは、県への訪日客は全国と比べて韓国からの割合が高く、この年に政治的な事情によって下関市を訪れる韓国人旅行者が激減したためである。

【委員】

「第2章 周南市の観光の現状」について。

「2-2 周南市の現状と課題」のうち、「SWOT分析」の内容について交通アクセスや観光資源等にカテゴライズするなど、意味合いを持たせた記述に修正するよう求める。

【事務局】

次回までに整理する。

なお、「周南市の観光の課題」として挙げた3点は優先順位に基づき付番したもの。

【事務局】

「第3章 周南市の観光が目指す姿と施策展開」について。

前回策定委員会での意見を踏まえつつ、構成を変更した。

また、施策を取捨選択すべきとの意見に対しては、基本施策に優先順位を設定し付番し直した。

「基本施策2 夜型観光の推進」では、翌朝の観光プランを提案することで宿泊につなげる「朝型観光」という興味深いアイデアをいただいたところ。

しかしながら、現時点では朝の有力な観光コンテンツがないことから、「翌日の旅行プラン等の情報を集約して提供する」という表現とした。

「基本施策3 おもてなしの環境整備」は基本施策の4番目からの優先順位を変更。

「基本施策4 効果的な魅力発信」は全ての施策において重要な要素であることから、優先順位を6番目から変更し、加えてAIについて触れてはどうかとの意見を踏まえ、「AI検索エンジンに対応した情報発信」という文言を追加。

なお、前回3番目に掲げた施策「魅力ある持続可能な観光地づくり」は、情報発信の強化が主たる取り組みであったことから、本施策に統合。

「基本施策6 多文化共生による地域づくり」は、前回素案において国際交流や多文化共生の表現が不十分であったことから、3つの項目を挙げ新たに追加。

【委員】

基本施策1と2は、物質的な観光資源といったマテリアル。

基本施策3と4は、人や情報といったノンマテリアルであり、それによって基本施策1と2に掲げたマテリアルを活かすというもの。

基本施策5と6は、自治体間や海外まで範囲を広げた広域エリアという整理となっており、評価できる。

【委員】

基本施策1に「(2) 温泉を活かした観光の推進」とある。

他自治体でも温泉について施策を講じており、例えば、ランドマーク的な施設に行くことで温泉をより身近に感じてもらうなどの取り組みが必要ではないかと考える。

しかし、本ビジョンはそうした具体的な計画を記載するものでないことから、先述の表現に様々な取り組みを包含させていると理解してよい。

【事務局】

その理解でよい。

【委員】

熱海市では商店街をフィルムコミッションに活用し、結果的に観光客の増加に結び付いたということである。

本市にも県内で最も歴史ある商店街があり、映画等の撮影によって地域が盛り上がりそうだが、こうした取り組みについてはどうか。

【事務局】

市内では過去に映画の撮影が行われたことがあるものの、組織としては立ち上がっていない

い。

民間の協力や理解が不可欠となることもあり時期は未定であるが、他市の状況等確認しつつ動き出したいと考えているところ。

【会長】

綺麗な観光地を撮影し、美しいBGMを沿えるPR映像が多い中、下関市の観光プロモーションビデオは一見一昔前の怪獣映画のような古びたつくりり。

ふぐを怪獣に見立てて、人々が観光地を逃げる内容としていて大変インパクトのあるものとなっている。

【委員】

「第4章 観光ビジョンの推進にあたって」について。

「4-1 推進体制」で、「(1) 市民の役割」、「(2) 観光関係団体の役割」、「(3) 観光関係事業者の役割」、「(4) 周南市の役割」となっている。

観光地でない地域で観光事業を展開する場合、反対の声が挙がることもある。

そうならないためには、第一に市民の理解や協力が必要であり、主体的な情報発信源となってもらうことが重要。

それを加味すると、次に観光事業者、続いてそれを支える団体、最後に施策等でバックアップする行政、とする方がまとまりがよい。

(2) と (3) と入れ替えてはどうか。

【事務局】

指摘のとおり入れ替えを検討する。

【会長】

県内の人手不足が気になっているところ。

観光の需要があっても、働き手不足により宿泊施設をフル稼働させることができないと耳にする。

周南市におけるコロナ禍後の人材確保の状況はどうか。

【事務局】

市の施設管理やボランティアガイドにおいても高齢化が進み、観光人材の担い手確保が課題となっている。

【委員】

経営する温泉宿泊施設においても、人手不足によって全客室を稼働させることができていない。

県内の宿泊施設についても同じ状況だと聞いている。

外国人インターンシップを受け入れているが、言葉の壁など課題も多い。

例えば、部屋食では食事を運ぶのに人手がかかるため、宿泊者に食堂に来てもらう会場食とするなど、少ない従業員数での接客方法を工夫し、顧客満足を図ることが求められている。

【委員】

工場の定期修理が2年おきに行われ、そのためホテルや飲食施設では繁忙期と閑散期が1年ごとに訪れると聞いた。

定期修理は同じ年に重複するという特殊な事情があるのか。

ホテルが空かねば観光客の受け入れは困難でないか。

労働者からすると、軽井沢町のように繁忙期を働く月、閑散期を休む月として明確に分けたライフスタイルを送るという例もある。

本市でもそうした先進的な働き方のニーズがあるという捉え方はできないか。

【委員】

定期修理は4年ごと。

【委員】

市内ホテルでは、予めビジネスマンの受け入れを想定し、定期修理の時期であっても一定数空き部屋を残していると聞いている。

温泉宿泊施設においても、1人1部屋での利用や、長期の宿泊は受付を控えている状況。最近では、定期修理の場合、ウィークリーマンションの利用も多いと聞く。

【委員】

大規模なスポーツ大会等や定期修理が重なると受け入れが困難になり、宿泊客は他市に流れる。

「今日宿泊したい」という問合せがあるが受け入れができない。

【委員】

文化会館で開催されるイベントが宿泊施設の利用に影響することもある。

【会長】

定期修理による周期があるならば、閑散期に大規模イベントを開催するなどして宿泊施設の利用率を平準化するという案もある。

【事務局】

次期ビジョンに具体的に盛り込むことは困難であるが、定期修理のサイクルを考慮した事業展開は興味深いものである。

■まとめ

【朝水会長】

定期修理のサイクル等、初めて聞く興味深い内容であった。

■次回の策定委員会について

日時：令和6年12月16日（月）10：00～12：00

場所：周南市役所 シビックプラットホーム 多目的室